

## 地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19年 12月 15日
事業所名	内海ホーム 気まま
事業所番号	愛知県2375700610
記入者名	職名 管理者 氏名 松本 好司
連絡先電話番号	(0569) 62-3760

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中で、その人らしく暮らしている」地域住民との交流は散歩、行事に参加。地域の人が必要としているサービスを提供するという視点では、訪問、通所、移送サービスを展開している。	○	地域の人との交流、行事参加だけではなく、施設を開放し、行事を行い、地域の人々の来訪等を行いたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「安らぎここにあり、気ままな暮らし」を理念とし、「年を重ねた（重ねてきた方）の今までの頑張りをねぎらい、わがままを通させてあげて」とスタッフに伝え、管理者自らケア、指導に取り組んでいる。スタッフは一人一人に、理念を書いた書面を渡し、目を通すように促している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域、町役場、内海地区の個人病院にパンフレット（理念が記されている）を設置させていただいている。理念を玄関やリビングに掲示している。パンフレットにも明記しており、家族には入所時や面会時に説明を行っている。また、2ヶ月に1度、地域推進会議を開催して、勉強会や意見交換等を行っている。地域の方々にホーム新聞の配布を行うようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩等で挨拶を積極的に行っている。自動販売機を設置し、気軽に利用させていただいている。	○	施設行事を企画し、隣近所の人に気軽に声掛けして、来訪していただけるよう考えていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏の花火大会、敬老会（利用者さん参加）、地区運動会の見学に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏休みには地域の中学生、小学生、大学生のボランティアの受け入れを行っている。事業所にホームヘルパー2級の受講者を受け入れたり、他のヘルパー養成所の実習生を受け入れている。	○	施設長、管理者、スタッフは地域の認知症高齢者を理解する学習、予防法等、勉強会に参加している。地域ボランティア、実習生の受け入れは続けていきたい。
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をスタッフに配布、研修を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の区長、身体障害福祉会役員、役場担当者、管理者、スタッフが参加し、年6回行っている。地域の包括ケア会議に参加し、勉強会を行っている。運営会議は、お互いに理解を深めていく意義がある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設内にて日時を決め、市町村担当者の都合を聞き、来訪していただいて、運営推進会議を行っている。包括ケア会議にも参加している。また、地域の大学にて勉強会、町内の体育館等の施設が開放される行事、勉強会に参加している。	○	勉強会、行事参加は、機会があるごとに積極的に参加していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、独身の利用者、伴侶を亡くされ、お一人になられた利用者については、個々に話し合い、活用できるよう支援を行っている。利用者には独身の方もまれにいらっしゃる、血縁者の方も少なく、弁護士にも入っていただき支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルをスタッフは目を通し、常に心がけている。	○	これまで施設内には虐待の件はないし、今後も「虐待がない」のが当たり前の姿勢を通していく。時には利用者が、スタッフに対して手を上げる場面が見られるが、利用者の気持ちが分かるように接していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書は分かりやすく明記している。入所者の受け入れを施設長、管理者が行っている。	○	契約書、重要事項説明書等、施設長、管理者以外のスタッフも理解することが望まれる。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者は、重要事項説明書に明記してある。職員が受けた場合は、書面に残し報告を行う。また、利用者さんとの会話の中で意見を聞き、業務日誌に記載し、スタッフ間で情報を共有し、改善を図っている。	○	利用者によっては要望等あっても、口に出さないケースが多々あると思われるので、利用者とのコミュニケーションに重点を置き、なるべく多くの利用者の要望等を組みとって改善させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時等に利用者さんの様子をお伝えしている。面会の少ない方については、電話、手紙または訪問にて様子をお伝えしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が受けた場合、業務日誌に記入。(受付担当者が不在の場合) 担当者がある場合は、担当者が代わって対応する。	○	家族からの要望等を、スタッフで共有できるように努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日誌に職員の意見を記入することができ、それを通して管理者は、スタッフの意見を聞いている。いつでも、スタッフが困っているときは駆けつけ、スタッフも気軽に言える関係にある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は2～3名のスタッフが配置されている。清掃を外部委託することで介護に専念できる環境整備を行っている。各居室にはナースコールが設置してある。	○	利用者の身体状況によって、深夜でも施設長、管理者がかけつける体制は維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との信頼関係がしっかり出来ているスタッフを中心に、長く勤めているため、他のスタッフが離職しても、そのスタッフを中心にダメージを防いでいる。スタッフが交代するときは、できるだけ生活環境を変えないように引継ぎを十分に行っている。新しいスタッフには、慣れるまで他のスタッフがサポートに入っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフがチームの一員として、研修、会議等の参加の機会を与えられている。研修後は報告を行う。研修計画は施設長が行う。施設ではできる限り職員が集まれる機会を作り、先輩スタッフが新任スタッフに必要な知識、技能を伝えるようにしている。さらに、スタッフには外部の講演会等に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟している。また、包括ケア会議に参加している。地域ボランティア受け入れの際、町の社会福祉協議会の来訪があり、事前説明等を行っている。全国グループホーム連絡協議会に加盟している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は話やすく、話をよく聞いてくれる。意志が直接伝わりやすい。仕事の合間に、スタッフ同士が話し合い、情報交換を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出勤した際には、業務日誌等に記入し、それに対し、施設長や管理者がアドバイスを行っている。運営者は組織間の親密さが「向上心を持って働き続ける」ためには必要であると考えているのでそれを実践している。施設長も管理者も気軽にスタッフに声掛けし、意志疎通を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの間に何度か電話や訪問等行い、話を伺っている。また、施設にも来訪していただき、話を伺っている。アセスメントに記入し、それをスタッフが共有している。新しい情報も、業務日誌等に記入し、共有できるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの間に何度か電話や訪問等行い、話を伺っている。また、施設にも来訪していただき、話を伺っている。アセスメントに記入し、それをスタッフが共有している。新しい情報も、業務日誌等に記入し、共有できるようにしている。その都度話しを聞いていき、内容を書き留めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	業務日誌にて、改善策等を記入し行っている。すぐにできないような内容の場合は、施設長や管理者と相談しながら進めている。スタッフ同士でも合間に話し合っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室には今まで使用していた物を持ってきていただき、なじみの物を使っていたり、利用者に家族、職員や他の利用者のだんらんの輪の中に入って頂き、なにげない温かい受け入れに気を配るようにしている。利用者には入居前に来訪していただき、一緒に施設内を見学していただく。また、皆さんと一緒に過ごしていただき、雰囲気を感じていただく。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしたり、本人の個性、興味のある物、好きな物等を把握し、それを引き出せるよう支援している。不安、苦しみなどの気持ちを受け止める。食事の準備などを手伝っていただく。	○ 一方的な介護にならないように、スタッフ同士で理念を確認しあっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にホーム新聞を発送したり、来訪された際に、情報交換を行っている。利用者の様子や写真等を発送している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何かあったときは、すぐに家族の方に連絡を入れ、定期的に新聞を作り発送している。家族の方が来訪しやすい環境作りはできていると思うので、「どうしたら来訪していただけるか」を考えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば電話などを行っている。	○	馴染みの人物等の把握、またその人物に対し、再び交流できるよう取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員で食事をし、スタッフも間に入り、会話をしている。利用者同士がより親しく関わりをもてるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などをしたときは、お見舞いに行ったり、家族の方には電話連絡を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お風呂などは毎日入りたい方は、入りたい時間に入らせていただいている。なかなか難しいときもあるが、できるだけご本人の意思を尊重できるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報をもらい、スタッフ全員に、資料に目を通してもらったり、ミニミーティングを行っている。アセスメント表を記入し、多くの情報を得られるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	何か気が付いたことがあったら、業務日誌に記入し、それをスタッフが見るようにしている。また、口答でも申し送りをしてスタッフ全員が共有できるようにしている。業務日誌や個人記録への記入を行い、スタッフは目を通し、情報を共有している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフから話しを聞いて、作成している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回モニタリングを行い、期間に応じて作成している。業務日誌、個人記録だけではなく、スタッフからも話しを聞きながらモニタリングを行っている。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録があり、毎日記入し情報を共有している。業務日誌や、個人記録を見直し役立てている。個人記録や業務日誌にて情報の共有を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	短期入所、通所介護も実施していきたいが、役場との調整、協力が必要になってくる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防職員に来訪していただき、消防訓練を行った。ヘルパーの実習、地域ボランティアを積極的に受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	1ヶ月に1回の地域包括ケア会議に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年度始めには挨拶に行き、何かあったときには連絡を入れ、推進会議の案内を持って行っている。必要に応じて連絡を取り合って相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	星空医療グループの医師と連携し、皮膚科、眼科、内科、耳鼻科は月1回、整形は隔週1回、医師が往診し、毎週1回看護師が来訪している。24時間連絡可能で、夜間往診も行っている。主治医が異なる場合は、家族が対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設の協力医療機関の医師は認知症の研修を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、看護師が来訪し、バイタル、様子などを診ている。困ったときは、そのときに電話連絡をしている。	○	利用者の状況に応じて柔軟かつ迅速に相談が受けられる体制を維持していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のドクターには、様子などを主治医に連絡してもらい、退院後も安心できるように主治医に連絡を入れてもらっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望がある場合、最後まで看取どけることを、スタッフ全員で共有している。	○	機会があるごとに、再度スタッフ同士で話し合い、再認識していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで看取りを実践してきた実績を生かして協力医との連携及びアドバイスをもとにできる限り、重度や終末期を迎えても本人、家族の望む暮らしをかなえている。施設長より、ご家族に連絡をし、協力医の連携のもとに方針を決めている。管理者が待機し、すぐに動ける体制をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先へホームでの情報を提供している。施設長ならび管理者が、利用者にも家族にも安心していただけるよう十分な話し合いをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気を壊さぬよう、また、利用者さんを傷つけないように、言葉、態度には気をつけている。	○	研修などを通して、再認識していけられるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一方的に決めず「～しますか?」「～でいいですか?」等本人の意志に委ねるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な生活をして頂いている。就寝時間や入浴の時間など。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なるべく自分で服を選んでもらっている。スタッフに理容資格がある方がいるので、切ってもらっている。意志決定があまり見られない利用者についても、一緒に考える、いろいろな服を並べて聞いて見る等、少しでも利用者の意思決定がみられるように努める。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが立て替えを行っているが、お金を持つことで安心感をいただく方には少額もって頂いている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく天気の良い日は近所まで散歩をし、季節感を感じてもらっている。スタッフの人数により、少人数での外出になっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	みかん狩りなど季節に合わせた場所に行っている。事前に「ここに行きますがどうですか」と確認している。	○	もっといろいろな場所（観光地）などへ行けられるように努めたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話については、子機を使用し居室などで対応している。利用者からの要望があるときも、施設の電話で対応している。手紙等もご本人お渡しし、開封などが難しい場合は、お手伝いしている。プライバシーに配慮しながら、家族のつながりを大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるように、スタッフも日々の様子などを話している。面会時間は決めていない。来訪され、そのまま外出されるときもあるため、トイレ誘導等、外出準備も行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」の研修を行っている。不穏時で出て行こうとされる利用者と一緒に散歩に行き、落ち着いた頃に戻ってくる等の指導は、施設長よりされている。言葉での制止も拘束の一つと考え、利用者にもストレスを与えないよう配慮している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。自由に入出入りしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングにスタッフがおり、どこからでも見える作りになっている。夜間も巡視を行っている。利用者が動き出したときは、その動きを見守ったり、声掛けを行ったりし、所在確認や安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、薬等の危険なものは極力見えないところに保管している。利用者が危険品を扱うことがないため、必要で可能なものであれば、スタッフが見守りをしつつ、能力をいかしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの事例記録から研修会を行い事故防止に努めている。	○	研修だけではなく、普段からスタッフ間で、意識して予防に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内研修で行われている。非常時の場合、施設長、管理者が医師と連携が取れるようになっており、対応している。毎週、訪問する看護師にその都度習っている。	○	全職員が、応急手当等の勉強会を重ねていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っている。関係機関に挨拶等をしていて協力が得られている。	○	消防訓練だけではなく、普段から災害防止への意識を高めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	個々に合った介護計画を作成している。家族には来訪時、普段の様子をお伝えすることで、ホームで注意していること、また、今後起こり得るリスクについて、その都度話している。	○	何が起こっても、家族の方に理解して頂けるよう、利用者の普段の様子をお伝えすることでコミュニケーションを図り、信頼関係を深めていく。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行って利用者の顔色、表情、食事量、排泄パターン、量、歩行状態などいつもと変わらないか、なにげなく観察している。個人記録や業務日誌に記入し、スタッフ間で情報を共有、夜勤者への申し送りにも活用している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録、及び業務日誌にて服薬方法が変わったり症状の変化に応じて情報の共有を行っている。お一人お一人の薬箱で飲み忘れ、飲み過ぎのないよう職員が管理している。体調不良の際、気になるときは医師に連絡をし服薬内容、方法、指示を受けてから服薬を行っている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日に定期的に必要な水分を水分を確実にとって頂いている。食事は楽しく普段の生活にストレスがないよう配慮している。	○	便秘予防について、看護師や栄養士からの勉強会を開催したい。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	マニュアルと研修を行い、スタッフに理解を促している。食後の口腔ケアを促している。口腔ケアをさせていただけるような働きかけを、研修を通して行う。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な食事量、バランスを確認しそれを参考にお一人お一人の状態に合わせた支援をしている。	○	水分の量は、スタッフの間の申し送りのみになっているので、今後は記録に反映させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	研修に参加し報告をしている。手拭タオルではなく、ペーパータオルを使用している。外出のあとは手洗いうがいを習慣にすることで、予防を促している。ウエルパス消毒を行っている。	○	感染意識が食中毒シーズンと風邪シーズンあたりのみになっているので、年間通して意識していけるように努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、日にちを見て購入し、こまめに冷蔵庫の中を確認している。食器用のふきんや台拭きは使用後、ハイターにつけている。食器も時々ハイター消毒をおこなっている。食中毒に繋がらないように冷蔵庫の中の確認など徹底している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に自動販売機を設置し、気楽に立ち寄れる雰囲気を出している。居室や居間などにも植物や置物、季節の飾りつけなどを行っている。居室や居間などに、季節にあった飾り付けを、華美にならない程度に行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りをしている。時々、音楽も流している。換気などもこまめに行い、こもった感じにならないようにしている。季節の飾りや、音楽などで、明るい雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビにソファを設置し、皆で観たりできるようにしている。所々にイスを設置し、1人で座り、外を眺めたりできるようにしている。外出した際の写真や作品などを壁などに貼っている。食事の席は、仲の良い利用者が近くなるようにし、おやつ時間は好きな場所で召し上がっていただいている。写真や作品がずっと同じにならないように、交換に努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、利用者が愛用していた物を持ってきていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、こまめに行うように心掛けている。また、温度調節についても各々、利用者に声掛け等、確認を取りながら行っている。換気は、掃除の時間、食事後やおやつ後に行い、それ以外でも、気になるときには適時、換気を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体バリアフリー構造になっている。利用者の行動を見ながら、危険なものは撤去したり、撤去できないものは、安全なように工夫している。施設内は、全体的にはバリアフリー構造になっている。また、階段等の使用で利用者の残存機能を生かしたり、機能訓練の場になったりと、自立した生活を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室等、分かりやすい表示をして、なおかつ声かけ等により、利用者が混乱しないように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り、季節の野菜等を植え、収穫を一緒に行っている。また、犬を飼っており、ふれあいができるようにしている。利用者によってはベランダで洗濯干しを日課として楽しまれている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)